

地区協会祝辞 (団体会員)

函館電設業会 会長 平 沼 冠 三 様

後志電業協会 会長 岩 城 直 人 様

室蘭電業協会 会長 高 井 智 志 様

苫小牧電業協会 会長 中 村 衛 様

オホーツク圏電業協会
会長 山 本 義 明 様

帯広電業協会 前会長 板 倉 利 男 様

釧根電業協会 会長 新 妻 緊 市 様

宗谷電業協会 会長 山 崎 雅 史 様

上川電業協会 会長 西 山 陽 一 様

留萌電業協会 会長 宮 尾 久 志 様





函館電設業協会 会長
平 沼 冠 三
(権電工業㈱)

函館、札幌、北海道を 鳥瞰して

北海道電業協会創立50周年を迎えるに当たり、心よりお祝い申し上げます。

50年前の昭和40年代前半といえば、ようやく北海道にも高度成長の波が押し寄せ、日本全体の国の発展に北海道もその一端を任い始めた頃だったと思います。

函館においても市民会館、市民体育館等の大型公共施設や人口増による商圈拡大の観点からデパート等の商業施設の移転工事が行なわれた時期でもあります。札幌と地方との意見の違いはあったとしても、電設業界全体の発展と近代化に努力された協会の先人の方々へ感謝すると同時に今日まで時代の変化対応して適切な提言、指導、助言を頂き有難うございます。

当地区においては昨年、北海道新幹線が開業し、観光客の増加等に見られる開業効果により、一定の経済成長が見受けられます。いよいよ、これからは札幌延伸の工事が進められ道央地区のみならず、北海道全体への波及効果が出る様に官民間問わず知恵を出していかなければならないと思います。北海道電業協会も有力な経済団体の一員として広い観点から北海道全体の発展に寄付していく事を期待致します。そしてそれによって電業協会としての価値を高め、我々の業界が抱えている若手人材不足等の諸問題の解決にもつながる事と思います。

広いひろい北海道、道南、道央、道北、道東、各ブロックの共通の課題、独自の課題を業界全体の観点からの舵取りをお願いして創立50周年のお祝いの言葉とさせて頂きます。



後志電業協会 会長
岩 城 直 人
(㈱富士電気)

後志管内の今の現況

まずは、協会創立50周年にあたりこれまで永きに渡り、ご苦労されながら協会運営にあたられました沢山の皆様に、感謝とお礼を申し上げます。

さてこの度50周年節目にあたり30周年以降の20年を振り返り寄稿のご依頼をいただきました。50年という節目でも御座いますので、後志の現況・概要をご紹介しますと考えました。

ご存じかとは思いますが、後志管内は1市19カ町村で構成され総面積約4,300平方キロメートル、農業・水産業・林業・観光などの産業に支えられております。北部から西部にかけては、日本海に囲まれ、東部は大都市札幌に接し、中山峠を経て羊蹄山から洞爺湖に通じる地域であり、南部は渡島地域に接しています。気候は春から夏にかけては温暖で晴天の日が多く過ごしやすい地域です。しかし、秋から冬にかけては北西季節風の影響を受け風雪が強く、日本海側は波浪が激しくなり、内陸側は積雪が多くなり特に羊蹄山麓は道内屈指の豪雪地帯となります。

今この後志地区を語るには、やはり観光の話を語らずにはならないでしょう。言わずと知れた小樽ではここ数年前から中国・台湾・韓国そしてアジア圏の各国から小樽、積丹、ニセコと言う観光コースで沢山の観光客が訪れます。倶知安・ニセコエリアには沢山の外資系のホテルが建ち並び、季節にかかわらず、街行く人々、働いている人々を見ると外国にきたかと錯覚をするほど外国人が溢れています。この道内にとっても、このような地域はすくないのではないでしょうか。

やはりこれからの後志は観光産業が基幹産業にシフトする予感がします。高速道路の余市地域までの開通、また今後黒松内町までの延伸、そして北海道新幹線の延伸等、この後志に光りを見いだす話題が沢山あります。是非これからの後志が元気な地域になりますように期待して、とりとめのない寄稿になりますが、50周年をお喜びを申し上げ終わらせていただきます。



室蘭電業協会 会長
高井 智志
(大伸電設㈱)

創立 50 周年によせて

北海道電業協会創立 50 周年を迎えられ、室蘭電業協会を代表致しましてお慶び申し上げますと共に、業界発展のために活動された多くの諸先輩方のご苦労に対して深い敬意を捧げるものであります。

30 周年からの今日までの 20 年間に於いて PC 導入が業務内容を大きく変化させました。特に平成 10 年に Windows 98 が発売され、職員間の情報共有化、業務の管理、保管、運営、現場との社内情報の伝達、外部との連絡、情報収集、入札行為も紙から電子入札に変わってきました。今では各分野に無くては仕事ができない状況です。

また、社会情勢の中で人間形成に、新たな問題が発生してきました。それは少子高齢化と団塊の世代が第一線から離れて行った事です。全ての生産企業において技術の伝承などに歪みが起きて大きな社会問題となりました。現在は、電気業会に若い人の就職希望が少なく人手不足が叫ばれております。次世代を担う若手の人材育成に支障をきたしておりますが、魅力ある電気業界を構築するためには、様々な諸問題をクリアし、時代気質にあった職場環境を整えとともに、個々の事業者がインターンシップ等を積極的に取入れ、外部にアピールする努力が必要とされております。

昭和 30 年代から 40 年にかけて建築されました、公共施設等が、長期使用のため老朽化しており、大型建築物の建替及び計画が進んでおります。これらに対応すべき技術者の確保が必然となります。2020 年の東京オリンピック開催による施設の構築により、地方への影響は何かの形であると思います。資機材の高騰、人材不足などが考えられますが、それに対処して行かなければなりません。その事業が終わった時の反動に対しましても、対処方法を短中期に考えなければなりません。未来永劫のためにも。

最後に、北海道電業協会と各支部が連携し、地域の基盤産業の発展と活性化に寄与する事を念願し、次のステップに向かう事を期待いたします。



苫小牧電業協会 会長
中村 衛
(㈱中村電気)

創立 50 周年に寄せて

新緑のさわやかな季節になりましたが、皆様にはつづがなくご活躍のことと拝察申し上げます。

さて一般社団法人北海道電業協会創立 50 周年、誠に喜ばしく心よりお祝いを申し上げます。

50 周年半世紀、会員の資質の向上と地域経済への貢献を目的に、会員相互の啓発に努めながら地域に深く結びついた活動を今までされてこられた事と思います。

これもひとえに、歴代の会長並びに役員、会員の皆様の並々な熱意とご努力の賜であり深く敬意を表します。

また地域業界代表として 4 期 8 年目の間、官公庁の要望書の提出や意見交換会、地方自治体の分離発注の活動を通じて感じたことは、労働人口減少、少子化、地方過疎化、経済グローバル化、エネルギー問題など、そして業界も電力自由化新技術修得、若手人材確保など非常にきびしいものがあり、時代の大きな変革期をむかえていると感じています。

このような状況の中でますます北海道電業協会の役割も大きくなり、さらなる発展を期待するのであります。

最後に北海道電業協会会員各位におかれましては、会員相互の交流の絆をより一層深められ、地域社会の発展にご尽力されますように期待するとともに、この節目を契機にますますのご発展と皆様の更なるご活躍を心よりご祈念申し上げますとお祝いのご挨拶とさせていただきます。



オホーツク圏電業協会 会長
山本 義明
(山本電工(株))

創立 50 周年に寄せて

この度、一般社団法人北海道電業協会が創立 50 周年を迎えられ、記念事業の一環として記念誌を刊行されますことを心からお慶び申し上げます。

我々、電気設備工事業界を取り巻く環境は以前として厳しく、業界一体となって取り組むべき多くの課題に直面しています。

そのうちのひとつは、いわゆる担い手不足の問題です。若年者の入職促進等の課題に対しては若年者が、如何にこの業界に魅力を感じた将来を見通せる環境整備の実現に早急に進めていくことが求められています。

東日本大震災は、この国のあり方に大きな衝撃を与えました。防災・減災対策の見直しによる安心・安全社会の再構築、エネルギー政策の再考、さらに危機管理と情報伝達の根本からの体制作りなどが喫緊の課題として検討されるようになりました。特に最近の天災・他の災害等の発生状況・頻度を考えるとその重要性は増大してきていると感じます。

翻って、電力小売りの完全自由化、電力システム改革、働き方改革への対応等、廻りの環境の大きな変化がございます。

関係事業所、団体はこうした課題への対応に力をそいでいく事が求められていると思います。

創立 50 周年を迎えた北海道電業協会は、その中核としてこれらの課題解決に向けてその活躍を期待いたします。

これまでの業界への貢献に深く敬意を表するとともに、新たな発展をご祈念致します。



帯広電業協会 前会長
板倉 利男
(相互電業(株))

創立 50 周年記念誌に寄せて

この度、貴協会が創立 50 周年を迎えられたことに心から敬意とお祝いを申し上げます。

我々業界において、直面する課題はいくつかあります。が雇用の問題・若手技術者の育成・技術者の高齢化は共通した問題ではないでしょうか。東京オリンピック・パラリンピックの開催を始め直接的・間接的な投資開発需要などの発生が影響していることは否めない事実だと考えます。

各地区協会において先人達がご苦労され今日の礎を作ってくられたことに我々は深く思いを新たにしなければならぬのではないのでしょうか。ライフラインを守る我々にはまだまだ地域に貢献すべき事があるように思います。当協会も帯広市・開発建設部と「防災協定」を結び専門職としてまさかの災害にいち早く対応できるような体制を構築し地域に貢献しています。

今後においても手をかけなければならないインフラは山ほどあります。老朽化した公共施設をどうリニューアルするかも大きな課題です。人口減少は確かに業界として乗り越えなければならない大きな問題ではありますが、新しい分野での新規事業を模索する中で市民の生活を守り、率先して業界発展に邁進しなければなりません。

そのためにも、これからの若い人たちがこの業界に魅力を感じ、自分の人生や希望をかけてしかも誇りを持てるそんな仕事や環境を我々が一致協力して作りあげていかなければなりません。当地においても工業高校電気科 20 名・高等技専電気科 20 名が毎年卒業しますが地元で就職するのは半分程度です。

大事なのは、後継者育成・人材育成に向けて、我々がどれだけ熱意をもって取り組むかだと考えます。今後とも皆様のご指導ご協力をお願い申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。



鉦根電業協会 会長
新妻 緊 市
(北電工業㈱)

一般社団法人北海道電業協会 創立 50 周年に寄せて

一般社団法人北海道電業協会が半世紀の時を刻み、創立 50 周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げますとともに、現在の吉本会長にいたる歴代会長の強力なリーダーシップのもと、協会の活動を支えてこられた全ての皆様に深甚なる敬意を表します。

また、日頃より私たち道内各地域の電業協会の先導役として、業界の諸課題への対応や地位向上に向けた活動など、多大なご尽力を賜っておりますことに深く感謝申し上げます。

振り返りますと、当業界は、時代とともに急激に進む技術革新と市民・社会生活の変化などにより、高度化、多様化、多角化が求められ、電気に頼る役割は、益々重要となってまいりました。

特に、昨年夏の大型台風が当地域を直撃した際には、多くの協会員が労力を惜しまず不眠不休で、応急、復旧活動に努めましたが、改めてライフラインの確保における電気的重要性と、迅速な対応が求められる緊急時の地元電気事業者がなすべき役割の重さを強く実感したところであります。

今後も電気業界が担う使命と役割、さらには私たちを取り巻く環境の変化に迅速な対応すべく、「減災・防災の強化」「インフラ更新時代への対応」「新エネルギーへの対応」を柱としたビジョンを掲げ、常に先を見据えた取組みを進めてまいりたいと考えております。

結びに、一般社団法人北海道電業協会が益々ご発展されますよう、併せて会の皆様のご健勝でご活躍されますことを心から祈念申し上げ、ご挨拶といたします。



宗谷電業協会 会長
山崎 雅 史
(㈱啓電舎)

創立 50 周年記念誌の 発刊に寄せて

この度、一般社団法人北海道電業協会が創立 50 周年を迎えられました事を心からお慶び申し上げます。

さて、宗谷電業協会は、平成 14 年 10 月に、宗谷管内に本社を有する電設業者で、北海道の競争入札参加資格を有する電設業者を会員として設立いたしました。

当時、北海道電業協会の故齋藤会長さんと、副会長さんが遠く稚内まで来られて、電業協会のご説明をされていただけ事が懐かしく思い出されます。

平成 15 年 4 月の会員は、稚内市・枝幸町・豊富町・中頓別町・利尻町・利尻富士町・礼文町・浜頓別町・猿払村と 1 市 7 町 1 村の 20 者ありましたが現在は 1 市 6 町の 13 者まで減少しております。

当初、市町村、北海道の公共工事について営業・陳情等しておりましたが、次第に開発建設部等の国の営業にも広がっていきました。会員の方は皆さん、電気工事業協同組合に入っておりますが、当時官公庁の公共工事をしてない会社の方からは、別組合を作ると勘違いされた向きもありました。

初代会長は、(株)電建の小倉義門氏で、稚内商工会議所主催のロシア人企業研修生受入事業に協力し、会員 6 人で 1 週間づつ交代で現場を案内した事もあります。

この事業は、今もサハリンクラブとして続けておりますが、ここ 10 年は、電気関係の研修生はきておりません。

平成 17 年 4 月に、小倉会長が勇退され、会長を引き受けて早 13 年、特筆すべき事は無く過ごして来ましたが、一昨年 7 月に稚内開発建設部様と、他電業協会に先駆けて、「開発建設部所管施設等の災害応急対策業務に関する協定」を締結させていただきました。災害が起きた時の訓練など、やる事はありますが、少しずつ会員皆さんと協力して消化しようと思っております。

昨今の情勢は、昔と違い必ずしも地元企業が受注出来る環境にはなく、北海道電業協会様の陳情を頂いて、地方の弱小(?)企業にも受注機会が巡って来るように働きかけをお願いします。

先般も稚内開発建設部様に「電気通信技術講習会」を開催して頂きましたが、これからも出来る限りの研修会・講習会の機会を望むところでございます。

終わりに、北海道電業協会様のご発展と会員皆様方のご健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



上川電業協会 会長
西山 陽 一
(西山坂田電気株)

北海道電業協会の 創立 50 周年を祝って

一般社団法人北海道電業協会が創立 50 周年を迎えられたことに際し、心からお祝いとお慶びを申し上げます。

また、日頃よりわたしたちも地方団体会員へ格別のご指導を賜り、誠にありがたく、感謝する次第です。

上川電業協会は貴協会の団体会員として現在 36 社で構成しており、会員企業は南北 300 km 4 市 17 町 2 村の広範囲に点在しております。

貴協会に加盟した時は 61 社でスタートしたと記憶しておりますが、工事量の減少、技術者・技能者の高齢化に伴う後継者の不足などによって年々減少をたどっており、今後企業の存続すら困難であるという話も少なくありません。

しかしながら、社会生活の中で一番大切な“電気”の果たす役割はますます重要になってきており、業界においても、後継者の育成は急務となっております。

私たち地方に所在する事業者は業界全体で担い手不足に悩んでおりますが、電気技術者になろうとする人を一人でも多く発掘し、工事業界の素晴らしさや将来性を知ってもらうよう努力しなければなりません。

貴協会の協力を得ながら、会員一同一致協力して努力してまいります。

一般社団法人北海道電業協会の創立 50 周年をお祝いすると共に、益々のご発展を祈念申し上げお祝いの言葉といたします。



留萌電業協会 会長
宮尾 久 志
(株公電社)

一般社団法人 北海道電業協会の 創立 50 周年を祝って

一般社団法人北海道電業協会が今年創立 50 周年を迎えた事心よりお喜び申し上げます。

留萌電業協会は平成 15 年度より当会に加入し現在に至っております。

電気設備工事も多様化し電気工事を取り巻く環境も更に技術の向上、安全の確保、経営の合理化と時代の変化に対応しなければならぬ多くの情報を共有する時代となって来ました。この様な状況下で貴協会には様々な情報を提供して頂き又各地域の協会長を始め貴協会の各役員と意見交換を経営者懇談会（兼運営協議会）等を通じ情報を得るなど、諸問題について共有出来る事になりました。

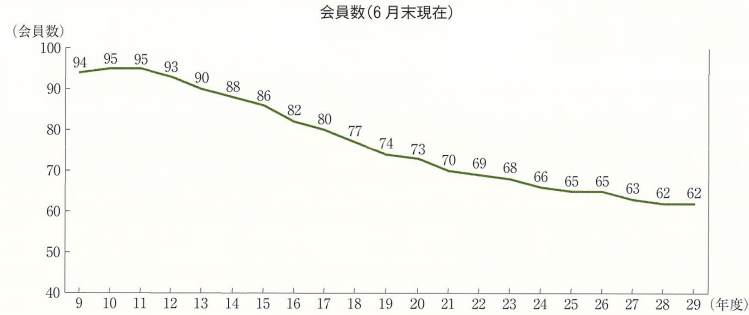
貴協会を通じ更なる地域と中央の橋渡しとなって頂き、当留萌電業協会としても各会員の協力を得ながら地域経済の動向を踏まえ業者数減少の中、少なくとも地域電気設備に係るインフラ整備に対応出来るよう微力では有りますが努力する所存であります。

貴協会が今後益々の発展と協会員各位のご健康とご活躍を祈念しお祝いの言葉といたします。

会員減少と会費の変遷

1. 会員減少

この20年間会員の減少傾向が続いており、平成29年現在企業会員52社、地方協会が10団体で会員数は62となっています。



2. 会費の変遷

- ・社団法人時代には、会員の負担軽減を目的に平成18年度より協会規則（会費規程運用細則）に定める会費（以下、「本則」）の50%、平成21年から90%を旧会館の売却益などによる財産から充当していました。
- ・しかし、一般社団法人に移行することに伴い、正味財産に相当する金額を公益目的に支出することが求められたため、従前と同様の充当が困難となり、一般社団法人移行後の事業の適正な運営を確保し、健全な発展を図ることを目的に第46回通常総会（平成24年5月10日）において、本則の50%まで段階的に会費を還元していくことを決議しました。
- ・その後、第51回定時総会（平成29年5月16日）において、公益目的支出計画終了後も従前と同様の協会活動を維持できる水準として、本則の80%まで更に段階的に会費を還元していく旨を決議しております。

